

東舞子

2018/06/29 (7月号)
神戸市立東舞子小学校
平成30年度学校だより

<http://www.kobe-c.ed.jp/hmi-es>

友達との関わりを大切にする

校長 古池 茂

早いもので30年度も3か月が過ぎようとしています。子供たちの表情は4月当初とはずいぶん変わりたくましくなってきました。緑に包まれた校内からは、子供たちの元気で明るい声が職員室にいつも届いてきます。先日の運動会は天気心配されましたが、6月9日当日は快晴のもと、運動会を開催することができました。多くの保護者、地域の方々にご来校いただき、また、昨年度まで本校に勤務していました教職員も駆けつけ、子供たちを見守りながら温かいご声援をいただきましたことに感謝申し上げます。

子供たちは約1か月間、練習に励み、運動会当日を迎えました。かごに向け、一つでも多く入れようと跳び上がって投げようとする1年生、フラフープを腰で回すだけでなく、地面においてリズムよく飛び跳ねる2年生、棒をしっかりと握り、声を掛け合い力いっぱい引き寄せる3年生からは、友達と息を合わせて演技をしたり競争したりする子供たちの真剣さを感じました。また、「どっこいしょ」、「そいやっ」と声を一つにし全身で技を披露する4年生、騎馬を巧みに移動し戦ったり、バトンパスをつないで走り抜いたりする5年生、小学校生活最後の運動会として組体操に緊張感をもって臨んだ6年生からは、友達と力を合わせるだけでなく、心も一つにして粘り強く取り組む姿に心が打たれました。

人は一人では生きていけません。子供たちが大人になった時、予測不能な時代が到来すると言われていています。自分で考え判断し、多様な人々と協働しながら困難な局面を生き抜いていく力の育成が求められています。学校では、日々の学習や運動会、音楽会、自然学校などの学校行事を通して、友達と手を携え粘り強く取り組む力を育てていきたいと思っています。

さて、先日6月18日(月)大阪府北部を震源とする地震が発生し、垂水区は震度4の揺れを観測しました。本校では、登校した子供たちを運動場へ避難させるとともに、校舎等の安全確認を行いました。運動場で「余震が起こった時の行動の仕方」について子供たちに指導した後、教室に移動しました。安全で安心な学校づくりについて教職員が共通理解を図るとともに、子供たち一人一人が防災の意識を高められるよう、防災教育を推進していきます。ご家庭でも、災害が起こった時にどのように行動するのかを具体的な場面を想定して、保護者の方とお子さんがいっしょに考え話し合う機会を設け、「命を守る」ことについて考えていただきたいと思います。

